

飼料用米の乾燥調製経費が削減できる玄米乾燥技術

利用対象：コントラクター、飼料用米生産農家

(背景)

水田を活用した食料自給率の維持向上を図るため、飼料用米の生産拡大とコスト低減が求められている。しかし、収穫物の乾燥調製方法は主食用米と同様であり、低コストな技術体系とはなっていない。

乾燥調製経費の大幅な削減が可能な玄米乾燥技術を体系化

(特徴)

○高効率な乾燥を実現可能

・本技術は、脱ぶ後に玄米で乾燥されることから、慣行体系（粳米での乾燥）と比較して、作業時間、灯油消費量、電力消費量が 50%削減できます。

○乾燥機の有効利用が可能

・本技術は、玄米での乾燥による重量の減少と容積重の向上により、乾燥機内の充填率を 40%削減でき、1 台の乾燥機で乾燥可能な飼料用米の重量を増やすことができます。

○同等の製品率と飼料成分値が確保可能

・本技術で得られた最終製品（玄米）は、慣行体系と同等の製品率（玄米の歩留まり）および飼料成分値となります。

留意点

※高水分の生粳を脱ぶすると、処理能力および脱ぶ率が低下することから、収穫時の粳米水分を主食用米以下に下げてから収穫する。

※慣行体系に比べ、粳の選別精度が劣るため、脱ぶ状況を確認し選別強度を調節する。



収穫(自脱型コンバイン)

脱ぶ(インペラ式籾摺り機)

乾燥(循環式乾燥機)

お問い合わせ先	三重県農業研究所 農産研究課 川原田直也 電話 0598-42-6359
参考になる資料	三重農研HP: http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm